

# 船橋市 市民公益活動公募型支援事業 平成25年度 実施事業事例集



発行：船橋市 市民生活部 市民協働課

平成26年6月

## 「市民公益活動公募型支援事業 実施事業事例集」の発行にあたって

「市民公益活動公募型支援事業 実施事業事例集」は、市民公益活動公募型支援事業を創設した平成22年度から毎年度作成しており、今年度で4冊目の事例集となります。

今回の事例集では、平成25年度実施事業として採択された22件の事業について、各市民活動団体が原稿を作成しています。

各団体のページでは、団体の活動紹介にはじまり、支援金をどのように活用し、どのような成果があったか、そして今後の活動の抱負について、各団体が記述しております。

この事例集を通じて、活動に携わる市民の方々の生き生きとした姿、社会や地域のために活動している方々の溢れるパワーをお伝えできれば幸いです。

※平成22年度からの「市民公益活動公募型支援事業 実施事業事例集」は、船橋市のホームページ（<http://www.city.funabashi.chiba.jp/index.html>）に掲載されておりますので、是非ご覧ください。

平成26年6月

船橋市 市民生活部 市民協働課

## 【市民公益活動公募型支援事業 平成25年度実施事業一覧】

事業立上型 3件【支援率：支援対象経費の80%以内 限度額：20万円】

No	団体名	事業名称	頁
1	NPO法人 くーおん	「からだづくりを通じてところを育てる」運動が苦手な子への運動サポート事業	5
2	船橋ワーキングマザーの会	働く（働きたい）ママのための地域コミュニティ	6
3	NPO法人シビルまちづくりステーション 船橋防災関連プロジェクトチーム	地震による防災（液状化等）に関する知識普及および広報事業	7

事業提案型 19件【支援率：支援対象経費の50%以内 限度額：100万円】

No	団体名	事業名称	頁
4	親業ひまわりの会	社会問題となっている、いじめや不登校、ひきこもり、非行、自殺などからわが子を救い、親子の絆を作るコミュニケーションを学び広める活動	8
5	市民協働推進連絡会	市民活動の活性化へのサポート	9
6	“伝えよう船橋”の会	船橋かるたによる、子供の健全育成を図る活動及び住みよい魅力あるまちづくり推進	10
7	船橋漁港の朝市委員会	みんなおいでよ！船橋漁港の朝市	11
8	坪井湿地を復活する会	坪井のヘイケボタル復活計画	12
9	船橋障害者スポーツ・レクリエーション協会	船橋市障害者スポーツ・レクリエーションの普及・推進	13
10	三番瀬カレンダー制作実行委員会	2014年三番瀬カレンダーの制作	14
11	船橋英語連盟	船橋市の市内の英語学習者の英語の普及向上を図るとともに、市内在住外国人への日本語の教育を行う	15
12	オアシス家族会	精神障害者を抱える家族に対する支援事業	16
13	特定非営利活動法人 千葉県中途失聴者・難聴者協会	高齢者の文字情報における講座（要約筆記付）	17
14	NPO法人 うえるかむ権利擁護サポートセンター船橋	知的障害者と家族等の権利擁護と成年後見制度の相談と支援事業	18
15	NPO法人船橋ウォーキング・ソサイエティ	市民の為の各種ウォーキング体験会にて、健康増進活動推進事業	19
16	千葉 桃の会	世代を超えてみなで唱歌・童謡を歌おう	20
17	街に花と緑の会	前原西2丁目花と緑のまちづくり活動	21
18	市民後見センターちば・船橋	成年後見制度を広く船橋市民に広め、市民後見人を養成する事業	22
19	フィールドミュージアム・三番瀬の会	「三番瀬の干潟から縄文時代の食生活、昭和期の海辺の暮らしを体験する」	23
20	ふなばし街歩きネットワーク	船橋市における街案内ボランティア組織と活動の創出および人材育成事業	24
21	NGO 三番瀬のラムサール条約登録を実現する会	三番瀬食文化出前講座	25
22	公益社団法人 船橋地域福祉・介護・医療推進機構	「食と健康」に関するシンポジウムの開催	26

## 【市民公益公募型支援事業の概要】

市民の皆さんによる地域に役立つ取組みに市が必要な支援を行うといった「市民との協働によるまちづくり」があらゆる場面で展開されるよう、「船橋市市民公益活動公募型支援事業」を平成22年度より導入しています。

この制度は、市民活動団体から提案のあった事業について、その内容を審査し、公益性や社会貢献性の効果がある事業に対して、市が支援金を交付するものです。支援金の申請は「事業立上型」「事業提案型」の2種類で、それぞれ上限額と支援率を設定しています。「事業立上型」は、市民活動団体の設立後3年未満の団体が行う公益事業で、「事業提案型」は市民活動団体が主体となって行う公益事業か、市と市民活動団体が協働で行う事業が対象となります。

支援金の種別	支援率	限度額
<b>事業立上型</b> 設立から3年未満の市民活動団体が行う新規公益事業の実施に対し交付する支援金（交付は1回に限ります。）	支援対象経費の80%以内	20万円
<b>事業提案型</b> 市が市民活動団体から提案を受けた公益活動の事業費に対し交付する支援金（同一事業による継続は原則3年度を限度とします。） ※提案内容が特に公益性の高い事業であると認められたときには、支援率を80%とします。	支援対象経費の50%以内	100万円

対象となる事業は、支援金の交付により成果又は効果が期待できる事業として、平成25年4月1日から平成26年3月31日の期間内に着手かつ完了し、船橋市内で行われる地域課題の具体的な解決に向けて取り組む活動です。

申込みのあった事業の選定にあたっては、公募の市民委員を含む第三者で構成される「市民活動支援審査会」において、「公益性」「効果性」「適格性」「必要性」「新規性・アイディア性」「連携性・協働性」の観点に立った評価が行われます。

評価項目	審査事項
公益性	対象活動に持続性があり、広く市民の利益に貢献するものであること。
効果性	対象活動に対して支援金を交付することが、費用対効果の観点からみて適切であること。
適格性	団体の運営基盤が資金面、人員面において整っており、対象活動が団体の活動体制・推進能力に見合ったもので、実現可能な取組みであること。
必要性	社会的必要性の認められる活動で、市の公益課題の改善に資するものであること。
新規性・アイディア性	対象活動の目的の設定、実施方法に新たな着想や創意工夫があり、社会的に有用な取組みとして効果が期待できること。
連携性・協働性	民産学官等連携した取組みにより事業成果の相乗効果が見込まれること、または、市と協働する必要性、妥当性、課題解決の緊急性、重要性が高く、自立性が確保され、役割分担が適正に行われていること。

【平成25年度実績】

	申請件数	採択件数	交付件数	支援対象経費総額	支援金確定額
事業立上型支援金	4件	3件	3件	767,312円	552,622円
事業提案型支援金	25件	20件	19件	5,700,969円	2,688,956円
【合計】	29件	23件	22件	6,468,281円	3,241,578円

※事業提案型で採択された20件のうち、1件は採択後に市民活動団体から取り下げ。

【平成22年度から平成25年度までののべ実績】

	申請件数	採択件数	交付件数	支援対象経費総額	支援金確定額
事業立上型支援金	23件	22件	22件	5,628,341円	3,557,751円
事業提案型支援金	95件	80件	76件	35,624,346円	17,004,157円
【合計】	118件	102件	98件	41,252,687円	20,561,908円

※制度導入からの4年間で66団体からの申請があり、このうち49団体に対して支援金を交付

【平成24年度実績】

	申請件数	採択件数	交付件数	支援対象経費総額	支援金確定額
事業立上型支援金	6件	6件	6件	1,081,442円	739,701円
事業提案型支援金	28件	25件	24件	12,421,404円	5,841,783円
【合計】	34件	31件	30件	13,502,846円	6,581,484円

※事業提案型で採択された25件のうち、1件は採択後に市民活動団体から取り下げ。

【平成23年度実績】

	申請件数	採択件数	交付件数	支援対象経費総額	支援金確定額
事業立上型支援金	6件	6件	6件	1,779,826円	1,095,606円
事業提案型支援金	16件	15件	14件	8,584,428円	3,868,898円
【合計】	22件	21件	20件	10,364,254円	4,964,504円

※事業提案型で採択された15件のうち、1件は採択後に市民活動団体から取り下げ。

【平成22年度実績】

	申請件数	採択件数	交付件数	支援対象経費総額	支援金確定額
事業立上型支援金	7件	7件	7件	1,999,761円	1,169,822円
事業提案型支援金	26件	20件	19件	8,917,545円	4,604,520円
【合計】	33件	27件	26件	10,917,306円	5,774,342円

※事業提案型で採択された20件のうち、1件は支援金の交付を受けずに事業を実施。

「からだづくりを通じてこころを育てる」運動が苦手な子への運動サポート事業

【支援金確定額：161,860円 支援率：73.62%】

記入日：平成26年3月27日

■どのような活動をしている団体ですか？

運動が苦手なお子さんに運動を好きになってもらい、何事にも自信をもって立ち向かう生きる力を育てることを目的とした、少人数で丁寧な運動指導をモットーとする体操クラブの運営を行っています。また、年間を通して、自然体験事業も行っています。人々や社会との触れ合いの中で、主体性をもち、生き生きとした社会生活を送るための「自信・コミュニケーション・適応力」を育て、将来未来を背負うこどもたちの成長を支援しています。



体育課題の跳び箱にチャレンジします

■事業立上型支援金をどのように活用されましたか？

①運動器具の購入

(跳び箱、踏切板、ソフトフォームボール、バランスクッション、ミニトレーニングハードル、20mシャトルランテスト用CD)

②ボランティア謝礼金

③事業パンフ印刷費用および郵送料



①購入した運動器具

■事業立上型支援金を活用して事業を実施することで、どのような成果がありましたか？

運動が苦手なこどもたちは、いつも「きっとできない、どうせできない」という気持ちでいます。学校生活においてできないと思っていたことが、できたという自信をひとつでも多く経験してもらいたいと思っています。今回、支援金で運動器具を購入させていただき、運動の幅が広がり学校体育課題につながるが増えました。また、自然体験事業においては、ボランティアの方々の協力が毎回欠かせません。こどもたちの安全の見守りと楽しい活動の支援をしていただいています。こどもたちも地域の人々との関わりを楽しむ貴重な場となっています。このように色々な人たちとの活動を共に経験することは、これからの社会生活における貴重な体験となっています。

■今後の活動の抱負について

この活動が発足して2年、現在43名のお子さんが利用されています。現在は小学生のお子さんの利用が中心で、まず運動を好きになってもらうことを大切にしています。今後は活動の中・高校生にも広げ、就労に向けた基礎体力づくりを行って行きたいと思っています。また、活動の拠点を増やし、放課後等児童デイ「とれいる」を立ち上げ、小学校～高校生のお子さんの活動を行っていく予定です。将来的には地域社会の皆さんとの交流する場も設け、こどもたちへの理解を深めていただく機会をつくっていきたいと思います。色々な人々が楽しく暮らせる地域社会をつくるための一助になることを目指し活動していきます。

■問い合わせ先：理事長 山下 貴子（やました たかこ）

TEL：047-494-1358

E-mail:kuon@ae.auone-net.jp

働く（働きたい）ママのための地域コミュニティ

【支援金確定額：200,000円 支援率：64.72%】

記入日：平成26年3月25日

■どのような活動をしている団体ですか？

働く女性が、ママとして、職業人として、そして個人としてもイキイキと輝くことを目指します。地域の働くママを元気にし、子育て環境、両立就業環境の向上に寄与することを目的として活動しています。

- ・メインの支援層：育児休暇中～復帰後数年の働くママ（最も両立への不安や悩みが多い時期であるため）
- ・活動内容：①毎月1回のイベント（交流会、学習会など）開催による、直接対面機会の設定②ブログ、SNSを活用した情報交換機会の設定③地域のイベント参加、子育て支援機関との連携など



1月開催：子育て講座には50名以上の参加

■事業立上型支援金をどのように活用されましたか？

毎月の定例イベント開催のための費用（会場費、講師料など）

- 4月 家族参加 情報交換会（13組）
- 5月 整理術ワークショップ（12組）
- 6月 0-1歳ママのお助け情報（9組）
- 7月 トラブルシューティング（7組）
- 8月 働くママのための「社会保険」講座（5組）
- 9月 ベビーサイン体験会（8組）
- 10月 子育て応援メッセ  
「働くママのリアルライフ紹介」（20組）
- 11月 食育講座（14組）
- 12月 復職支援講座Ⅰ&年忘れ交流会（18組）
- 1月 パパとの連携講座（9組）、子育て講座（52名）
- 2月 復職支援講座Ⅱ保育園勉強会（15組）
- 3月 復職支援講座Ⅲ時短家事・料理（17組）



12月より「復職支援講座」をシリーズで開催。夫婦そろっての参加も増加。

■事業立上型支援金を活用して事業を実施することで、どのような成果がありましたか？

- ・会員数増加（160名以上の会員登録）のための広報費用が捻出できた
- ・参加費用を定額に設定することができ、多くの参加を促すことができた
- ・人気講師の召喚ができ、多くの新規会員獲得、会の周知ができた（1月子育て講座）

■今後の活動の抱負について

【次年度の重点項目】

1. 会のスタンス明確化と準じた会員獲得  
復職・両立支援、乳幼児期の子育ての悩み解消に重点特化。相互ネットワークづくりとノウハウ習得機会の提供
2. 会員個々がより地域と繋がる機会を設定する  
地域の働くママへ広く広報することを通じて、2次的に雇用者側、行政、パパや家族、子育て支援機関への情報提供の機会を創出する
3. パートナーとの連携強化支援 両立実現のキーパーソンである夫との関係強化を支援する

■問い合わせ先：代表 高橋 奈緒子（たかはし なをこ）

TEL：080-3485-6019 E-mail:fwmama@gmail.com

## 地震による防災（液状化等）に関する知識普及および広報事業

【支援金確定額：190,762円 支援率：80%】

記入日：平成26年3月28日

### ■どのような活動をしている団体ですか？

1. 市民参加による市民・行政との協働によるまちづくりとNPOとの連携。
2. 緑化・芝生化活動；校庭（小・中学校）、園庭（幼稚園等）の芝生化を推進。
3. 教育・啓発活動；まちづくりを中心とした講習会開催による教育・啓発を行っています。
4. 防災および被災地支援活動
  - ・2011年3月に発生した東日本大震災への被災地支援等。
  - ・液状化被害の減災を目的とし液状化対策プロジェクトを立ち上げ減災に向けた自治体・地域住民への情報提供。現地技術調査等。



地震防災フォーラムの開催  
(船橋市勤労市民センターホール)

### ■事業立上型支援金をどのように活用されましたか？

- ①地震防災の液状化に関する知識・普及をテーマにパンフレットを作成。
- ②液状化のメカニズムを理解・促進して頂くために室内試験器を制作。
- ③地震防災フォーラムの開催：地震防災と地域の地盤等の関連を述べた特別講演。船橋市危機管理課の地震防災対策等の講演、当プロジェクトチームの研究成果の発表。
- ④地震防災セミナーの開催：浜町、中央公民館で開催、危機管理課の地震防災対策（津波を含む）の講演。ドキュメンタリー映像の上映（浦安市制作）。当プロジェクトチームの研究成果の発表。
- ⑤上記活動状況を小冊子として取りまとめ、市民の方々に広報。



地震防災セミナー開催（浜町、中央公民館）での液状化室内模擬試験

### ■事業立上型支援金を活用して事業を実施することで、どのような成果がありましたか？

事業の実施は液状化の基本的な知識・技術、被害実態、対策、社会的な対応について調査・研究を進めた。支援金を活用し、地震防災の特に液状化に関する知識・普及をテーマに、パンフレットの作成、液状化室内模擬試験器の制作、地震防災フォーラム、地震防災セミナーの開催等の一連の事業を行った。また、セミナーでは浦安市で制作されたドキュメンタリー映像の上映を実施した。

成果としては、これらの事業活動を総まとめにした「小冊子：液状化へのエンタランス」を作成し、広く市民の方々に地震防災に関する啓発等に役立てていただければ幸いです。

### ■今後の活動の抱負について

船橋市においては、液状化の被害が浦安市、習志野市、千葉市に比べて戸建住宅等への被害が顕著でなく、あまり重要視されていない。このような背景から、液状化の被災状況は対象構造物、発生面積、被害の概要等についてまとめて記録されていない。よって、来年度は船橋市の関連部署（住宅、道路、下水所管課等）に被害実態等のヒアリングを行い、市の協力を得て被害実態調査をまとめる。また、大学や研究機関にもヒアリングを行う。これらの結果に基づき、今後予想される直下型大地震等に対し住民の方々に、防災意識の向上や災害に対処する地域住民の合意形成を促進する「キッカケ」に寄与できればと考える

■問い合わせ先：代表 花村 義久（はなむら よしひさ）

TEL：047-439-2082 E-mail:y-hanamura@nifty.com

## <親業ひまわりの会>

【事業提案型・1年目】

社会問題となっている、いじめや不登校、ひきこもり、非行、自殺などから  
わが子を救い、親子の絆を作るコミュニケーションを学び広める活動

【申請金確定額：96,719円 支援率：50%】

記入日：平成26年3月31日

### ■どのような活動をしている団体ですか？

「親業」（おやぎょう）とは、「子育て」のことです。子どもをどのように育てるかではなく、親がいかに関わるかを学びます。ノーベル平和賞に2度ノミネートされたアメリカのトマス・ゴードン博士が考案した「親子の心のかけはしを作るコミュニケーションスキル」をわかりやすく、親しみやすくお伝えする講演会（勉強会）を不定期ですが開催しています。「親業」を学ぶことで、親子のみならず、あらゆる人間関係がより良いものになると、好評です。子育てに悩んでいる人のみならず、誰もが「もっと早く出会いたかった」と感じる「親業」に是非出会ってみませんか。



特別セミナー「本当の親力・教師力向上をめざして」  
～話す技術・聞く技術～

### ■事業提案型支援金をどのように活用されましたか？

当会の代表が講師を務めたため、謝金は発生しませんでした。しかし、無名（？）の少人数の市民活動団体のため、周知、集客が難しいことから、チラシ作成に費用をかけました。また、いろいろな所への郵送代にも使わせて頂きました。

親業関係の書籍がたくさん出版されているので、皆様に実物をご紹介したく、書籍の購入にも支援金を活用させていただきました。



参加者との和やかな会話

### ■事業提案型支援金を活用して事業を実施することで、どのような成果がありましたか？

チラシ作成費や郵送代、書籍購入などに支援金を活用できることで、活動範囲が広まり、会を運営する上での経済的不安、心理的不安が軽減されました。

支援金を頂いて活動しているということに、責任感が生まれ、「もっとがんばろう！成功させよう！参加者の皆様に満足してもらおう！」という意欲（やる気）が倍增しました。

### ■今後の活動の抱負について

講演会に参加された人の満足度は高いと確認できるので、一人でも多くの皆さんがお気軽に、安心して参加できるように、広報の仕方を考えていきます。

当会の事業目的は、「親子の絆を作るコミュニケーションを学び広める活動」なので、これからも「温かい社会づくり」に貢献していきます。

■問い合わせ先：代表 堀川 佳子（ほりかわ よしこ）

TEL：047-477-2077

市民活動の活性化へのサポート

【支援金確定額：6,033円 支援率：50%】

記入日：平成26年3月12日

■どのような活動をしている団体ですか？

市民協働に関する環境づくりを目指して、市民協働の担い手である市民と行政が協力・連携することができるよう、そのコーディネーター役として良好なまちづくりを進めることを目的として、次の活動を行っています。

- (1) 市民協働事業の実施や会員の活動などの情報交換
- (2) まちづくりの推進を図る活動、及び市民公益活動を行う団体の運営、もしくは活動に関する連絡、助言または援助の活動
- (3) 船橋市または市民公益活動団体から協力依頼のあった事項への参加活動



情報ネット発信講座の様子

■事業提案型支援金をどのように活用されましたか？

昨年度のテーマを継続して、情報ネットの情報発信会員のスキルアップを図るための講座「情報ネット発信必勝講座」を開催しました。昨年度のガイドブックは、講座におけるQ&Aを逐次取り入れながら修正して使用しましたが、改めて全面的に見直した改訂版を作成し、その印刷に支援金を使用しました。更に、講座における情報ネットの基本的な説明を簡略化して、各団体の知りたいことに重点をおくため、簡易な手引きを作成し、その印刷にも支援金を使用しました。

【情報ネットとは(「ふなばし市民活動情報ネット」)】

船橋市がインターネット上に開設する市民活動情報サイトのことで、市民活動団体がイベントや活動内容などの情報を、自ら発信することができます。



市民活動まつりのパネル出展

■事業提案型支援金を活用して事業を実施することで、どのような成果がありましたか？

情報ネットの入力サポートの講座を昨年度に引き続き開催し、団体を個別にサポートしたことは、大変好評を得ました。受講の理由として、団体内の情報発信担当者が交代し、改めて情報ネットの入力方法を知りたいと希望する団体もあり、情報発信が可能な団体ばかりでないことが窺われます。

市民活動団体が、自らの活動を知ってもらい、理解してもらい、イベントに参加してもらうために、ソーシャルメディアの一角である「ふなばし市民活動情報ネット」を通じて、活動報告やイベント予定の情報を発信する団体が増えているが、一方で、他のコミュニケーションツールを利用して情報発信を行う団体も多く見受けられます。今年度の受講者は21団体と昨年度より減少し、目標には達しなかったが、市民活動に関する情報を発信することの重要性が、ゆっくりであるが浸透してきていると感じられる。

■今後の活動の抱負について

平成26年度は、市民活動サポートセンターの新規利用登録団体を対象に、情報ネットの利用方法等の説明を行うことが検討されていることを踏まえて、3回目となる支援事業交付申請を行わないこととしたが、市民協働推進連絡会としては、今後も行政の取り組みに対し、協力・連携する活動を行う予定である。

なお、情報ネットは、市民活動に関する情報の発信に加えて、情報・データの蓄積・整理が行えることを含めて、より一層の広報が望まれる。特に、市民活動サポートセンターだより「ふなばしご」の利用や情報ネット紹介のパンフレットを、市民の関心が向くように改訂することが必要と考える。

■問い合わせ先：代表 金内 俊彦 (かねうち としひこ)

TEL : 047-424-8123 E-mail : nrb53686@nifty.com

船橋かるたによる、子供の健全育成を図る活動及び住みよい魅力あるまちづくり推進

【支援確定額：86,095円 支援率：50%】

記入日：平成26年3月28日

■どのような活動をしている団体ですか？

船橋をよく知ること、それが地域への愛着や関心に発展します。その重要な入り口として船橋の史跡、文化財、名産品、産業などを詠んだオリジナル「船橋かるた」の遊びを通して体験し、楽しみながら子供たちに郷土の歴史・文化を継承するとともに児童の健全育成を図ることを目的とする。



船橋かるた葛飾 Walking（船橋レク協と共催）

■事業提案型支援金をどのように活用されましたか？

支援金は主にかかるた制作費及びかるた会開催案内等に活用しました。

- ① 「船橋かるた」100セットの制作費用
- ② 「北部版かるた」デザイン費用及び印刷費
- ③ 「大形かるた」（A4版）かるたのコピー制作費用
- ④ かるた会の案内ポスター、チラシの作成費用
- ⑤ かるたウォーキングの案内地図及び副読本の制作費



海老が作公民館子供祭り

■事業提案型支援金を活用して事業を実施することで、どのような成果がありましたか？

\*団体の活動目標である子どもの健全育成、住みよいまちづくり推進活動を「船橋かるた」の普及に合わせて実施した。初年度のモデルケースの児童ホームとして、「宮本児童ホーム」の「かるた会」が今年度も定期的で開催され、口コミで他の児童ホームでの開催に広がり、海神児童ホームでも定期的で開催されるようになった。

\*「北部版かるた」の制作により、八木が谷公民館ワイワイ交流会でのかるた会が行われた。そのほか法典、夏見、海老が作公民館でのかるた会開催へと広がっている。

\*かるたウォーキングにより親子の世代間交流が行われ、参加者に船橋を身近に感じてもらうことが出来た。

\*「森のシティ」のイベントに参加することで新船橋駅周辺の新住民の交流を深め、船橋を紹介することができた。

■今後の活動の抱負について

子どもの健全育成、住みよいまちづくり推進活動を「船橋かるた」の普及に合わせて実施したい。

- ① 各児童ホーム向けの「地区かるた」（東部版）の制作。
- ② 小学校の「郷土船橋」授業での「船橋かるた」の補助教材活用促進
- ③ 地域におけるかるた大会等の形で世代間交流、地域住民交流を図り、地域における人と人のコミュニティ構築へのサポート。
- ④ 市内各地域でのかるたウォーキングを行い、親子世代の交流促進。

■問い合わせ先：代表 鈴木 久美子（すずき くみこ）

TEL：047-435-2243

E-mail: suzuki-kmk@ee.e-mansion.com

みんなおいでよ！船橋漁港の朝市

【支援金確定額：42,633円 支援率：50%】

記入日：平成26年3月28日

■どのような活動をしている団体ですか？

「船橋漁港で水揚げされた水産物はどこへ行ったら買えるの？」という声にお応えすべく、船橋漁港（湊町3丁目）にて毎月第3土曜日午前中に朝市を開催しております。

船橋漁港水揚げの水産物（鮮魚、貝類、海苔）、船橋産の農作物を生産者の方が直売、それらを使った佃煮などの加工品、石窯でその場で焼くピッツァなどの販売を行っています。

船橋漁港の朝市は2010年8月に第1回を開催し毎月1度の開催を継続しております。



朝市開催時の風景

■事業提案型支援金をどのように活用されましたか？

「お魚さばき方教室」の講師謝金、「船橋漁港の朝市瓦版」と銘打ったニュースレターの印刷費に充てました。

ニュースレターを毎回発行することで、船橋漁港の朝市をさらにアピールできるツールができました。ニュースレターやWEBページなど、デジタル・アナログを併用した広報ツールを活用することで、今後も継続してアピールしていきます。



開催場所は漁港ですが、農作物も手に入ります

■事業提案型支援金を活用して事業を実施することで、どのような成果がありましたか？

毎回の朝市には100～200名のお客様がお見えになっております。また、お客様に鮮魚を購入いただいてさばき方を知っていただく「お魚のさばき方教室」も毎回ご好評をいただいております。

本事業による成果の1つ目は、毎回たくさんのお客様に船橋産品に触れていただける機会ができていることがあります。2つ目は、船橋市主催の「ふなばし朝市」に漁港の朝市メンバーが出店させていただけるようになったことで、場所は違えども船橋産品のアピールができるようになったことです。

これらの成果は朝市を数回開催しただけでは得られないものです。我々は継続できるペースで朝市を開催・運営することを強みに持っておりますので、今後もこの強みを活かしていきます。

■今後の活動の抱負について

今後も「毎月第3土曜日に」、「船橋漁港で」、「船橋産のものが手に入る」朝市を継続開催します。市民の方に地元産品をアピールするためには朝市を継続することが必要です。ニュースレターやWEB媒体を活用できるPRの方法を模索することで集客につなげます。集客ができれば、市民の方にさらに船橋漁港をアピールすることができます。

「船橋漁港から船橋全体へ」。船橋漁港から船橋の1次産業をアピールすることで船橋全体の地域振興の活性を目指します。

■問い合わせ先：代表 内海 金太郎（うちうみ きんたろう）

TEL：090-3089-7100

E-mail: kintaro@kane8suisan.com

坪井のヘイケボタル復活計画

【支援金確定額：93,182円 支援率：50%】

記入日：平成26年2月26日

■どのような活動をしている団体ですか？

新しい街の住人に街への愛着を持ってもらえるよう、坪井近隣公園内の調整池に坪井の湿地を復活し、そのシンボルとして坪井原生のヘイケボタルの自然発生に取り組んでいる。

主な事業としては、市立坪井小、県立芝山高校、東邦大学里山応援隊、日本大学理工学部の指導、協力によりホタル幼虫の育成、湿地整備を進めている。

具体的活動はホタル講演会の開催、湿地の草刈りなどの整備、水質検査、飼育箱の管理、餌の巻貝の養殖、他にPR活動として、坪井小PTA機関紙の取材対応、湿地にポスター掲示、昨年度に引き続いて缶バッジの作成、配布をしています。



坪井近隣公園の調整池に湿地を作る

■事業提案型支援金をどのように活用されましたか？

- ・飼育水槽の維持・・・ポンプ購入
- ・湿地整備・・・農具、遮光ネット、支柱購入、
- ・講演会・・・講師謝礼、実験機材購入
- ・PR活動・・・キャラクター制作、缶バッジ製作



美し学園自治会館でホタル講演会と飼育水槽のホタル鑑賞会を実施

■事業提案型支援金を活用して事業を実施することで、どのような成果がありましたか？

- ・飼育水槽の中ではあるが、その中で育った坪井原生のヘイケボタルが見られたことで、住民のホタルと自然環境に対する関心が高まった。
- ・活動を通して、周辺の小学校、高校、大学と交流ができた。
- ・地元の美し学園自治会の協力が得られるようになった。

■今後の活動の抱負について

平成26年度も原生ホタルの採集、坪井近隣公園内の湿地整備、ホタル講演会の開催などを通じて、活動の盛り上げとホタルの自然発生を実現させたい。

また、湿地整備の活動により、坪井近隣公園内調整池の水生生物に対する環境を改善したい。

■問い合わせ先：代表 江口 章（えぐち あきら）

TEL：047-456-7551 E-mail:mirukun610@nifty.com

船橋市障害者スポーツ・レクリエーションの普及・推進

【支援金確定額：235,000円 支援率：49.49%】

記入日：平成26年3月28日

■どのような活動をしている団体ですか？

障害者、高齢者等のスポーツ・レクリエーション及び文化等の振興を図ることにより、障害者等の社会参加の促進と健康増進に寄与することを目的としています。主な活動は次の通り。

①スポーツ教室の開催

薬円台教室（43回）、前原教室（30回）の2会場で開催

②車椅子ウォークラリー、障害者スポーツ体験の開催「スポーツの祭典」に合わせて実施しました。

③船橋市障害者スポーツ交流フェスタの開催

障害者スポ・レク、スポーツ吹矢、卓球交流を行いました。

④障害者スポーツボランティアの実施

スポーツ吹矢、バグジー、卓球、アーチェリー等のボランティア、障害児夏休みプログラム、寿大学、女性セミナー、市民大学、身障者福祉センター、公民館、地区社協、児童ホーム等のイベントに協力しました。



障害者スポーツ交流フェスタ  
(薬円台公民館)

■事業提案型支援金をどのように活用されましたか？

①スポーツ教室、車椅子ウォークラリー、スポーツ交流フェスタ等のPRチラシ作成費用

②障害者スポーツのガイドブック作成費用

③障害者スポ・レク協会日より発行と郵送代

④スポーツ教室講師謝礼、障害者スポーツ用具借入費用

⑤協会運営の事務用品代等

概ね以上の事業に活用しました。教室、フェスタ等は参加費を徴収し、協会として自主運営出来るように努めています。



バスケットピンポン対決  
(ふなばし福祉まつり)

■事業提案型支援金を活用して事業を実施することで、どのような成果がありましたか？

スポーツ教室参加者は、約600名。障害者と健常者が一緒に楽しみ、スポーツを通じた交流が深まりました。また、障害者施設訪問指導（8回）、精神障害者の卓球指導（23回）、身障者アーチェリー矢取り（51回）、知的障害者ソフトボール交流試合（1回）、福祉施設訪問（4回）等を積極的に行い、障害者スポーツの普及・推進に努めました。（延べボランティア数は345名）。船橋市障害者スポーツ交流フェスタは約60名が参加し、スポ・レク、吹矢、卓球に熱戦をくりひろげました。船橋市バドミントン初心者大会、ダーツ大会にも出場、秋季市民ダーツ大会女子の部で準優勝。全国障害者スポーツ吹矢大会車椅子の部で全国3位になりました。また、全国障害者スポーツ大会アーチェリー競技（スポーツ祭東京2013）に船橋市の代表が選ばれました。総じて障害者が地域社会との関わりを広げることに繋がりました。

■今後の活動の抱負について

船橋市には千葉県や千葉市（政令指定都市）のような障害者スポーツ専用施設はありません。障害者自身が積極的に行動することで関係先にいろいろな提案をする必要があります。当協会は、市内のスポーツ団体、障害者団体、指導者等と協力し「船橋市障害者スポーツガイドブック」（市内スポーツ施設障害者利用ガイド）の作成を掲げています。できることから始めよう！をモットーに、いつでも、どこでも、いつまでも障害者スポーツの環境づくりに努め、「こんなスポーツあったんだ！」を定着させたいと思っています。

■問い合わせ先：会長 高橋 久吉（たかはし きゅうきち）

TEL：090-4226-9623

E-mail：pi090105-2986@tbzt-com.ne.jp

三番瀬カレンダー制作

【申請金額：208,491円 支援率：50%】

記入日：平成26年3月28日

■どのような活動をしている団体ですか？

船橋市の前に広がる三番瀬は広範囲に埋め立てられましたが、残っている干潟、浅海域では今も多く生物が生まれ育ち、漁業も脈々と続けられています。渡り鳥の飛来地としても全国的に知られています。

この三番瀬の自然の姿や漁業、伝統行事などの写真をカレンダーという見やすい形に編集し、小学校、公民館などに寄贈しています。また書店や地域のお店で販売もしていただいています。

三番瀬の自然環境が私達にとってかけがえない貴重な財産である事を、より多くの方に感じて頂きたいと願い活動しています。



25年9月 市役所1階ロビー 「三番瀬写真展」

■事業提案型支援金をどのように活用されましたか？

25年度も支援金をカレンダー編集・印刷費用の一部にあて、船橋市立小学校全学級や児童館、公民館等に2014年カレンダー「2014三番瀬で会いましょう」を寄贈する事ができました。（見開きA3判、月ごとにA4写真とカレンダーと組み合わせて構成したもの。）

また、これまでに制作してきたカレンダーの拡大版ポスターを市役所（写真）や船橋本町通りなどで展示しました。できるだけ広く、市民の皆さまに三番瀬の自然、漁業、三番瀬に関わる地元の歴史・行事などについての様々な情報をお伝えしたく、このための費用としても活用させていただきました。



三番瀬カレンダー  
「2014三番瀬で会いましょう」

■2年目となる事業提案型支援金を活用して事業を実施することで、どのような成果がありましたか？

船橋市民にとって「ふなばし三番瀬海浜公園」は身近な存在ですが、その公園の前に広がる海が三番瀬である事、そこで海苔養殖や魚貝漁が盛んに行われている事などを「知らなかった」という方がまだまだいらっしゃいます。多くの方が三番瀬カレンダーや展示された拡大ポスターを見て、「船橋に三番瀬という優れた自然環境がある」ことに驚かれます。一方、昔の三番瀬の広大な干潟を知っている方は「三番瀬の自然がまだ残っている」ことを喜び、「大切にしなければ」と語られます。また、小学校では三番瀬を知るための教材として活用されている所もあります。

市民の日常生活に近いところに三番瀬という自然環境が存在していること、それが貴重な市民の財産であることを、カレンダーの写真を通じて伝える事ができているのではないかと思います。

■今後の活動の抱負について

来年度は2015年三番瀬カレンダーを制作します。小学校を中心とした寄贈、拡大版の展示などを続ける事によって、三番瀬の自然や漁業、三番瀬に関わる町の歴史や行事などをたくさんの方々に見ていただき「三番瀬は私達の大切な財産である」と考える市民が増えていくことを願って活動します。また、これらの費用とするため、カレンダーの有料頒布などもより広く行いたいと思います。

■問い合わせ先：代表 田原 悦子（たはら えつこ）

TEL：090-2457-7102

E-mail:et-higashihunabashi@mild.ocn.ne.jp

船橋市の市内の英語学習者の英語の普及向上を図るとともに、  
市内在住外国人への日本語の教育を行う。

【支援金確定額：85,394円 支援率：50%】

記入日：平成26年3月13日

■どのような活動をしている団体ですか？

市内で活動している4つの英語学習クラブが主体。他8協カクラブの連盟であり、各クラブがそれぞれの活動を行うのみでなく、行事を通して日本と外国文化の交流を行う。また、英語学習及び国際交流への興味関心を持つ市民への窓口になるような事業を長年継続して行っている。

主な行事として、9月海神公民館にて第28回英語フェスティバルを開催。アジア、アフリカのゲスト9人を迎え、盛大に国際交流を行った。10月英語落語会は新聞にも広報され、市民に広められた。2月フィリピン料理教室を準備、多数の参加予定だったが降雪のため次年度に延期した。

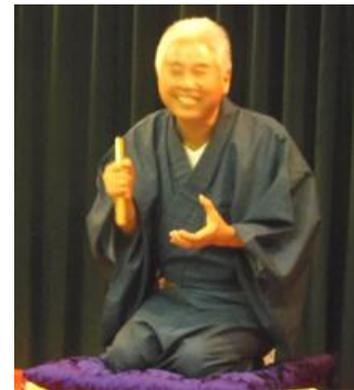


第28回英語フェスティバル

■事業提案型支援金をどのように活用されましたか？

英語による国際交流フェスティバル開催時に、色々な国からの外国人ゲストの招致に活用。英語学習者はより深い内容の討議を含めた交流を期待している。始めて参加する市民の方は英語の楽しい交流を期待する。双方の参加者の期待に答えられる英語力のある外国人ゲストの招致をすることができた。英語連盟会員は用意した資料代を徴収したが、一般市民は無料にすることができ、気軽にダイナミックな国際交流を楽しんでもらうことができた。

また、英語落語会の開催も市民の方に無料で提供することができた。また外国人の日本語教室参加の援助も行った。



英語落語寄席

■2年目となる事業提案型支援金を活用して事業を実施することで、どのような成果がありましたか？

英語フェスティバルの会では、特にアジア、アフリカの外国人ゲストのよるその国の現状についてのスピーチを聞き、諸外国に関心を持ち、国際感覚を芽生えさせた。フリー討議や交流会で外国人ゲストと触れ合うことを通して草の根国際親善の実施、継続の大切さや楽しさを参加者全員が感じ取ることができたのが成果である。

会に参加した外国人の方々に、日本の文化を伝えることもできた。また、会に参加した市民に英語学習を始めるための助言や地域のクラブを紹介し、きっかけ作りができた。英語落語会では興味のある市民に講座体験をしてもらうなど関心を持ってもらえた。

■今後の活動の抱負について

東京オリンピック2020を目指して、自分たち市民が、おおいに草の根国際交流ができるために、他の諸外国の実情や、自分たちが求められている「おもてなし」を知り、実践力を身につけられるような内容の事業を立てていきたい。

英語学習を生涯学習とする人たちとの連携、また、これから英語学習を始めようとする市民の窓口の役割を果たせるような活動をしていきたい。

■問い合わせ先：理事長 長濱 美知子（ながはま みちこ）

TEL：047-423-1220

E-mail：jeans\_n@hotmail.com

精神障害を抱える家族に対する支援事業

【支援金確定額：113,950 円 支援率：30.05%】

記入日：平成 26 年 3 月 20 日

■どのような活動をしている団体ですか？

精神障害を抱える家族が、悩みを分かち合いながら、さまざまな問題を解決したいと 2003 年 9 月に結成されました。月 2 回の談話会（悩み、困り事の相談）及び、講師を招いての出前講座（勉強会）をしています。

また、このような家族会がある事を知ってもらう目的で、皆さんと一緒に楽しめるチャリティコンサートも行っています。会場ロビーにて、会の活動の展示をしています。



チャリティコンサートの様子①

■事業提案型支援金をどのように活用されましたか？

常にストレスをかかえて家族、談話会や出前講座に出席したくても出席できない家族のために（理由：当事者の不安が強く 1 人で家に居られない等）情報源としてのお知らせの印刷（年 4 回）発送費の補助、出前講座の講師へのお礼の補助、チャリティコンサートの会場使用料及び出演者への補助、25 年度は、10 周年記念事業費（墨絵ライブ）の補助として、活用しました。



チャリティコンサートの様子②

■2年目となる事業提案型支援金を活用して事業を実施することで、どのような成果がありましたか？

チャリティコンサートでは、毎回 200 名以上の方に来場いただき（家族会以外の一般の方は 150 名ほど）、家族会の存在を理解および PR が出来ていると思います。

コンサート、出前講座のチラシを見た方から問合せがあり、見学、入会に繋がった方もいます。常にストレスを抱えている家族に対しては、悩みや困り事の相談を受け、思いを共有する、お知らせでの情報発信することで、支援が出来ていると思います。

（思いを共有する事で心が軽くなった、情報を得る事で支援機関に繋がった、一歩前に進めた、悩んでいるのは自分 1 人ではない、仲間がいる等の声が届いています）

■今後の活動の抱負について

周りから孤立しがちな家族、常にストレスを抱えている家族の悩みや、困り事の相談、思いの共有、出前講座を通して、少しでも問題を解決できるよう、「家族が元気」になれるように、また精神障害者を抱える家族のための家族会がある事を知っていただくと共に、地域で家族や当事者が安心して普通に生活できるようになることを、理解していただけるよう、他の家族会とも連絡を取り合い、努力していきたいと思っています。

■問い合わせ先：オアシス家族会

TEL：080-5420-0843（9:00～19:00）

高齢者の文字情報における講座（要約筆記付）

【支援金確定額：58,204円 支援率：50%】

記入日：平成26年3月10日

■どのような活動をしている団体ですか？

人生の途上で失聴した人や難聴になった人たちの福祉を目指し活動している団体です。特に音声会話が成り立たなくなった喪失感から、孤立しがちな中途失聴者・難聴者にコミュニケーション方法の獲得を促す月例会や、社会の理解を求める啓蒙活動を行っています。また、コミュニケーション支援用具の筆記ボードの作製、聞こえのシンボルマークの普及にも力を入れています。

更に要約筆記者の全国組織である「全国要約筆記問題研究会・千葉支部」と共に文字での情報提供等、協働での取り組み活動を積極的に展開しています。



OHPで文字情報のある交流会

■事業提案型支援金をどのように活用されましたか？

高齢による聴力の低下は本人でさえも気づきにくく、周囲の人も見落としやすいものです。今まで明朗だった人も、聞こえにくいため人と会話から離れ、引きこもりがちになります。25年度前半は高齢者の集まる施設での説明会や交流の場にOHP（オーバー・ヘッド・プロジェクター）による文字での情報提供を行うことで、周囲の状況が掴め交流の輪に入っていけるよう支援しました。

更に後半は、高齢難聴者に関わっている施設の相談員を対象に高齢難聴当事者からの聞こえ方の実態や、どう対応すれば高齢難聴者が戸惑わず理解しやすいかの具体策を共に学ぶ研修会を行いました。



ノートテイク利用で相談員の研修

■2年目となる事業提案型支援金を活用して事業を実施することで、どのような成果がありましたか？

補聴器装用者は、大勢の人が集まる場やマイクを通して聞く音は雑音も増幅され聞こえにくいものです。今回、施設での利用説明会にOHPによる要約筆記を付け、話しの内容を要約（ポイントを押さえた情報）しました。文字で表すことで「内容がよく解った」「話がまとまっていて理解しやすかった」等感想が多く出されました。特に耳の不自由さがない方々にも、情報を文字でゆっくり確かめられる要約筆記は「内容を確認できて良かった。」との声もありました。

更に、後半に実施した職員対象の研修は、「高齢難聴者の聞こえ方など、その状態が理解できどう対応すべきかの方法も知ることができ大変有意義であった」と評価され、当事者支援だけではなく周囲の人たちへの理解を深める必要性を改めて感じました。

■今後の活動の抱負について

今年度の後半に実施した職員対象の研修は、高齢者をサポートする上で非常に意義のある内容と感じました。その理由は、その年代の感じる不自由さは、その歳に到達して初めて実感するものでしょう。当事者の感覚・経験を知るとは、介護する側にもイメージしやすく思いやりある対応につながると思います。この高齢難聴者を支えるための環境づくりを今後もできるだけ多く続け、啓蒙していきたいと思えます。同時に文字情報の大事さにも繋がることと期待しています。

■問い合わせ先：理事 金田 敏子（かなた としこ）

TEL：047-432-8039

E-mail: ccnk@kzd.biglobe.ne.jp

知的障害者と家族等の権利擁護と成年後見制度の相談と支援事業

【支援金確定額：200,000円 支援率：41.73%】

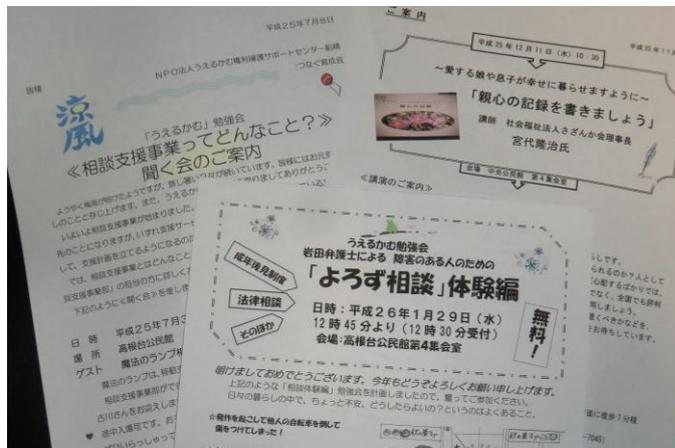
記入日：平成26年4月16日

■どのような活動をしている団体ですか？

判断力が十分でない知的や発達の障害を持つ方が、人として、船橋市内で、また一般の社会で、安心安全で幸せな暮らしができるよう成年後見や権利擁護などの支援をしています。

ひとり、または家族で悩んでもなかなか解決に届かないことでも、誰かに話すことで、支援の輪が広がります。顧問に弁護士を迎え、社会福祉士も理事として在籍しています。

様々な悩みの解決の糸口になりたいと障害者本人の親たちの会、「船橋市手をつなぐ育成会」を母体として、立ち上げたNPO法人です。



勉強会（全3回）の案内ちらし

■事業提案型支援金をどのように活用されましたか？

1. 勉強会を3回しました。
2. 「障害者のつどい」として「春よ来い♪フェスティバル」を一般の方との交流の機会として計画しましたが、大雪のため、残念ながら中止せざるを得ませんでした。
3. 「うえるかむ通信」を発行して、一般社会の皆様にご理解をいただき、また障害者家族に情報を発信しました。
4. 相談室で様々な相談を受け、問題によっては顧問弁護士や社会福祉士につながりました。  
進路問題、遺産相続、成年後見制度、その他
5. 後見申立をサポートし、法人後見として受任しました。



年6回発行している「うえるかむ通信」

■2年目となる事業提案型支援金を活用して事業を実施することで、どのような成果がありましたか？

- 弁護士の講演では、直に身近な疑問を聞くことで、障害を持つ人たちの将来や遺産相続等を他人事せず、明日への希望に変えられる時間になったようです。  
26年度の「弁護士による無料相談会」の事業につながりました。
- 宮代隆治氏や古川氏による勉強会では、障害者に関する法律が次々変わり、親たちには難しい相談支援事業や障害者虐待防止法などを講演でわかりやすく解説していただく機会になりました。
- うえるかむ通信の発行で、賛助会員も少し増えました。袖ヶ浦福祉センターの事件も取り上げ、障害のある本人にも、人としての尊厳と権利があることを再認識していただきました。わかりやすい漫画を通してのメッセージに目を通してくださる方も増えたと思います。

■今後の活動の抱負について

- 当法人を障害者本人とご家族にもっと親しんでもらい、気軽に相談に来られる方が増えることを期待しています。法人として受任した後見人の責任を果たしていきます
- 勉強会を3回開催、うえるかむ通信6回発行を計画しています。
- 「弁護士による無料相談会」を開設します。年に5回くらいを予定。
- 一般の方により一層のご理解をいただき、障害者と家族そして一般の方との交流が活発になることを願い、交流会（26年度は「年忘れフェスティバル」12月に予定）を計画しています。

■問い合わせ先：代表理事 赤津 保子（あかつ やすこ）

TEL：047-710-7045

E-mail: qqxt3s29n@canvas.ocn.ne.jp

## <NPO 法人船橋ウォーキング・ソサイエティ> (略称 FWS) 事業提案型・2年目

### 各種ウォーキング講習会を通して市民のための健康増進活動推進事業

【支援金確定金額：100,000円 支援率：49.17%】

記入日：平成26年3月24日

#### ■どのような活動をしている団体ですか？

「仲間と一緒にウォーキングを楽しんで あなたも私も みんなハッピー！」がモットーです。25年度は3部門で活動しましたが、26年度は超高齢化時代の健康のためのウォーキングをより普及するために、「ポールを使ったウォーキング」と「美・姿勢ウォーキング」(合言葉は「せ・す・じを伸ばしてさっそうと)」の2部門に統合して活動します。「基本」を大事にしながらも、個人の身体的状況に合うように、公認指導員が支援します。ウォーキングの楽しさを知り、きっかけをつくるための「体験会」と運動習慣と仲間づくりのための「定例会」があります。



定例会の様子

#### ■事業提案型支援金をどのように活用されましたか？

市民を対象にした「体験会」を市内10か所で開催しました。支援金は体験用ポールの追加購入と体験会開催経費として活用しました。体験会回数は28回、参加人員は延べ310名(ほかに9月21日の「市民活動まつり」と10月6日の「スポーツの祭典」の観客が299人)です。会場は船橋港親水公園、法典公民館、海老川、東武百貨店屋上、行田公園、運動公園、市民活動サポートセンター、きららホール、青少年会館等です。同じ目的の東武百貨店屋上の体験会、はま整骨院の協力によるシニア対象の「法典ノルディック」、若い母親対象の「健伸幼稚園母の会」等、対象を明確にしてきましたが、「プラウド新船橋」の体験会は新しい街並みにおける健康運動として位置付けています。



体験会の様子「健伸行田幼稚園」母の会

#### ■2年目となる事業提案型支援金を活用して事業を実施することで、どのような成果がありましたか？

- ①運動の必要性と運動の楽しさ・気持ち良さを感じてもらった。忙しい中で少しでも運動を習慣づけようとする動機づけになった。
- ②「2本のポール」を使えば、ウォーキングが楽になり、行動範囲を広げられることを感じてもらえた。ポールで歩くことによって、足・腰等の痛みが緩和された人もいた。
- ③「健伸行田幼稚園」の母の会における「ノルディック・ウォーキング教室」では、若いお母さんたちが、子供たちの声援のなかで、ポールを使うという新しい親子関係の楽しみを見出した。
- ④体験会や定例会への受け入れによる仲間づくり効果で、引きこもり防止に貢献。
- ⑤ポール・靴などのツールで経済効果があった。

#### ■今後の活動の抱負について

私たちは2種類のウォーキングで元気で明るい船橋の街づくりに貢献したいと考えています。なかでも「2本のポールを使うウォーキング」はリハビリから介護予防、健康増進、体力強化まで幅広い目的に有効ですが、従来のイベントや他団体との協働に加えて、今後は「街歩き」にも注力して、もっと日常的に使えるようにしたいと考えています。目的は将来のポール人口増加を見据えて、①個人の健康増進と市財政への寄与 ②船橋の史跡、名所、名店等へ市内外から人を呼び入れて、市の経済活性化に貢献 ③ポールは他の通行の邪魔にならないように」マナーも伝える ④ポール＝シニアのイメージ払拭もアピール。

■問い合わせ先：代表理事 佐藤 ヒロ子 (さとう ひろこ)

TEL：047-438-8818

E-mail: npofws@yahoo.co.jp

世代を超えてみなで唱歌・童謡を歌おう

【支援確定額：258,704円 支援率：50%】

記入日：平成26年3月29日

■どのような活動をしている団体ですか？

おなかから大きな声を出して歌を歌うことは、とても気持ちが良く、気分もスッキリして元気になります。歌うことで一人でも多くの市民の皆さんが、体も心も元気でいて欲しいと思って活動しています。また、季節や行事ごとに心に思い出される唱歌・童謡を子供から大人まで一緒に歌うことで、歌い継がれてきた日本の心を次の世代にもつなげていきたいと思っています。

毎月1回市内公民館で行なう「唱歌・童謡講座」は、予約が不要で気軽に参加出来る会です。また、年に一度大きなコンサートを行ない、舞台上で歌う楽しさも味わってもらいます。



歌おうふなばし！！歌の花束コンサート

■事業提案型支援金をどのように活用されましたか？

25年度は、毎月1回公民館で行なう「みんなで歌う唱歌・童謡講座」の他に、三咲児童ホーム、金杉台児童ホームでそれぞれ親子コンサートを、2月に勤労市民センターホールで第2回「歌おうふなばし！！歌の花束コンサート」を実施しました。親子コンサートは無料、勤労市民センターでのコンサートもなるべく多くの市民が参加しやすいように500円という金額におさえられたのは、支援金のおかげです。特に児童ホームでのコンサートには小学生の参加が多く、来年度も多くの子ども達に唱歌・童謡を知らせる機会にしていきたいと思っています。支援金は公民館やコンサート会場費、プログラム、チラシの制作費、講師への謝礼の補助金として使わせていただきました。



聞いて歌って楽しいみんなのコンサート

■2年目となる事業提案型支援金を活用して事業を実施することで、どのような成果がありましたか？

三咲児童ホームでの親子コンサートを2年続けて行なうことが出来、参加した親子や子ども達にも評判が良いので、児童ホーム側から次年度についても依頼をいただきました。

「歌の花束コンサート」も、2年目は入場料が必要だったうえ、大雪の影響があったにもかかわらず、150名以上の参加がありました。アンケートの回答に「ひとり暮らしであまり声を出さないの、こういう機会があつてよかった。」とあり、私達の活動の目的を支える心強いメッセージです。

「唱歌・童謡講座」も毎月問い合わせの電話を頂いています。この会の存在と活動が少しずつ市民に知られて来ているので、引き続きひとりでも多くの人に知ってもらえるように、頑張っていこうと思います。

■今後の活動の抱負について

次年度は、他団体と共催のコンサートの企画を考えています。お互いにぜんぜん違う分野で活動しているグループが一緒になれば、よりたくさんの市民にそれぞれの活動を知ってもらう機会になると考えます。ちがう生活環境、ちがう年代など様々な違いを持った市民と一緒に歌うことでひとつになれることを、コンサートを実施することで実現したいと思っています。

■問い合わせ先：代表 小林 里美（こばやし さとみ）

TEL：047-449-5540

E-mail:chibamomonokai@gmail.com

前原西2丁目花と緑のまちづくり活動

【支援金確定額：48,060円 支援率：50%】

記入日：平成26年3月29日

■どのような活動をしている団体ですか？

県道69号線の歩道内の緑地帯の整備、美化運動として、花の緑でまちおこしをしております。ゴミのない、花と緑の歩道、そして美しい花を咲かせて歩く人達の心のなごみになる様に。



美化運動の様子

■事業提案型支援金をどのように活用されましたか？

花壇の整備（緑地帯）に杭を立て、ロープで囲いをして歩道と花・木を植えており、その杭、ロープ、花や木を購入。ポスター、チラシ代に活用しております。



整備後の花壇の様子

■2年目となる事業提案型支援金を活用して事業を実施することで、どのような成果がありましたか？

私たちの活動が実を結び、JR津田沼駅北口の歩道内にりっぱな花壇を市当局道路管理課にて設置されて、地元自治会商店街の皆様で花を植えて、美しいまち前原へと変わってきています。

■今後の活動の抱負について

花、低木でまちおこしと共に本年は、美化運動、防犯防災の町、交通安全で事故のない前原のまちづくりに地域ぐるみで活動が続けていく様がんばります。

■問い合わせ先：代表 堀川 健兒（ほりかわ けんじ）  
TEL：047-473-0694

成年後見制度を広く船橋市民に広め、市民後見人を養成する事業

【支援金確定額：145,435円 支援率：50%】

記入日：平成26年3月27日

■どのような活動をしている団体ですか？

成年後見制度は2000年に介護保険制度の発足に伴って発足しました。介護保険制度は広く浸透し利用されておりますが、成年後見制度は介護保険制度の普及に遥かに及ばない状況です。

成年後見制度は認知症等による判断能力の不十分な方の権利擁護として、身上監護と財産管理を主な目的とする制度です。現在認知症患者は462万人、その予備軍は400万人といわれており、高齢化が進むにしたがって増加し、親族後見、専門職後見では対応が難しい状態になっております。市民後見センターちば・船橋は、市民の方に後見制度について知ってもらうこと、後見を必要とする人の身近にあって、後見をしていくことを活動方針としております。



船橋市中部地域包括支援センターからの報告

■事業提案型支援金をどのように活用されましたか？

成年後見制度・入門編（船橋）を10月20日（日）に船橋東部公民館で開催しました。

また、市民後見人養成基礎講座（船橋）を11月16日（土）、17日（日）、30日（土）、12月1日（日）の4日間（26時間）生活協同組合パルシステム千葉船橋本部・4階会議室で開催しました。

そして、これらの広報媒体としてのチラシ作成、講座で使用するための、より分かりやすい成年後見制度・入門編資料及び市民後見人養成基礎講座資料（教材）を作成しました。



成年後見制度利用のための市長申立ての説明

■2年目となる事業提案型支援金を活用して事業を実施することで、どのような成果がありましたか？

①成年後見制度・入門編を行いました。講義の質問コーナーでは参加者から多くの質問があり、後見制度について、興味を持ってもらえ、理解してもらえたと思います。無料相談会では、1件の相談を受け付けました。

②市民後見人養成基礎講座を行いました。受講者は17名、修了者は15名でした。現職弁護士などの専門職の方、介護・福祉職の方、一般市民の方が受講されました。参加者は前年度より少なかったのですが、4日間（26時間）にわたる各講座終了時には多くの質疑応答がありました。参加者の質問内容が昨年度とは比較にならないほど高度で、かつ実務的で、成年後見の必要性が差し迫った方の参加になりつつあるものと思われま

■今後の活動の抱負について

平成23年度から市民後見人養成基礎講座（船橋）を行っており、平成26年度もこの講座を実施する予定であり、通算の修了者は100名を超えるかと思えます。このマンパワーを実際の後見受任に向けるべく、さらなるステップアップ講座の開催と、相談事業をすすめます。ステップアップ講座では実務を中心として学び、後見の受任に向けて進めていきます。また、一方で船橋市民に対し、より多くの方に成年後見制度について理解を進めていくべく、「成年後見制度の入門編」も開催していきます。

■問い合わせ先：事務局 渡邊 誠志（わたなべ せいじ）

TEL：047-357-2700 E-mail:chiba@shimin-kouken.com

「三番瀬の干潟から縄文時代の食生活、昭和期の海辺の暮らしを体験する」

【支援金確定額：291,412円 支援率：50%】

記入日：平成26年3月28日

■どのような活動をしている団体ですか？

1. 三番瀬の干潟環境フィールドで四季変化する動物・植物の観察会を計画、実施しています。
2. 自然・歴史・郷土資料博物館の学芸員及び在野の専門家のレクチャーを受け活動しています。
3. 里海・里山の繋がりを観察会やシンポジウムに参加し、学ぶ活動をしています。
4. 大人・子どもで自然に親しみ、自然から学び暮らしに活かす活動をしています。



生きもの観察会

■事業提案型支援金をどのように活用されましたか？

25年度は三番瀬での観察会が四季を通して出来るようになりましたので、動物、植物の観察会が実施できました。

また、日本一貝塚の多い千葉県の上野の縄文時代の食生活のまねっこを、三番瀬で採取した貝や小魚を、火起こし体験と縄文土器（レプリカ）で煮炊きをして、食す体験をしました。

また、昭和期の人々の海辺の暮らし方を浦安市郷土資料館の協力を得て、道具や写真資料を借用し、直に触れ学びました。地引き網の体験も実施しました。

\*猛暑の中での夏休み体験活動となりました。



縄文時代の暮らしのまねっこ

■2年目となる事業提案型支援金を活用して事業を実施することで、どのような成果がありましたか？

観察会参加者も体験を重ねるごとに、学びも深くなり、生きものを見つける、触れることがうまくなり、親子で楽しむ家族が増えて来ました。24年度に学んだ「鳥の帽子」も活躍し干潟で、渡り鳥になった気持ちを子どもたちは楽しんでいました。

縄文土器で煮炊きした貝汁を「5杯お代わりしたよ！」と大人気でした。貝は、午前中、自分たちで採ってきたものです。まさに、縄文人のまねっこが出来ました。猛暑の中火起こし体験もしました。

■今後の活動の抱負について

三番瀬の干潟の四季を通しての観察会の継続（毎年環境は変化しています）実施と、観察後のまとめの交流会を計画します。自然観察会のニュースの発行を検討します。

26年度は、「海苔すき体験」を計画して、海と人々の暮らしの工夫体験活動を計画したいと思います。（浦安市郷土資料館の活動に参加することから学ぶ）

■問い合わせ先：共同代表 佐藤 聡子（さとう ふさこ）、田澤 浩一（たざわ こういち）

TEL：090-1769-9494 E-mail:hosikuzu@eos.ocn.ne.jp

船橋市における街案内ボランティア組織と活動の創出および人材育成事業

【支援金確定額：379,639円 支援率：50%】

記入日：平成26年3月18日

■どのような活動をしている団体ですか？

- 1 市内外からの来訪市民・団体を、市内の名所・旧跡・商店・農家・自然などにお連れし、船橋市の歴史・文化・産業・暮らしなどの魅力/見所を案内しています。
- 2 上記の案内人（ふるさと案内マイスター）を養成する基礎講座（1年間）を開催すると共に、案内人相互の学びあい/育ちあいを図るフォローアップ研修を行っています。
- 3 新街歩きコースの開発（案内エリア拡大・食事/土産つきコースなど）を行っています。



お寺の東屋をお借りしての歴史ガイド

■事業提案型支援金をどのように活用されましたか？

- 1 街歩きに必要なマップ・写真資料集・小旗などの整備に活用しました。
- 2 養成講座講師の講師料や会場費/資料印刷費に活用しました。
- 3 新コース開発のため、街歩き市民モニターを委嘱し、地産地消品試食や土産物選択に活用しました。
- 4 集客用チラシ（広範囲に配布）を制作するために活用しました。
- 5 研修教材とするための映像制作・編集に活用しました。



講師陣と共に講座修了式写真

■3年目となる事業提案型支援金を活用して事業を実施することで、どのような成果がありましたか？

- 3年間の支援を受けられたことは、以下のような成果を生み出す上で、決定的な力となりました。
- 1 案内人（案内マイスター）は26年3月現在61名に達し、“案内先進市”の仲間入りを果たしつつあります。「案内人のいる観光地ほど人が集まる」傾向が強まっている今日、大きな意義を持つものです。25年度にご案内した内外の市民は800名近くとなり、26年度は1千名を超える展望が開けました。（他市来訪者増加＝千葉市・習志野市・柏市・松戸市・八千代市・町田市など）
  - 2 漁業協同組合が市民の「漁場見学乗船体験」に「漁師町歩き（マイスターが案内）」を組み合わせるなど、市内の事業所や社会福祉協議会・国際交流協会・NPOなどとの“横の連携”が広がり、地域おこしの有力かつ必須組織に成長してきました。

■今後の活動の抱負について

- 1 「ふるさと案内マイスター養成講座」を「船橋観光まちづくりスクール」と改称し、これまでの案内人養成科目に加えて「観光を切り口としたまちづくり」を学ぶ科目を設けます。この学びから船橋市にふさわしい新たな観光事業やまちづくりプランを立案し、行政など各方面に提言すると共に、観光まちづくりを支える市民を養成します。
- 2 地産地消型食事つき街歩きコースや三番瀬満喫コースなど、多彩多様なコースを開発し、年間1千名を超える内外の市民をご案内し、郷土意識向上/地産地消促進/地域経済活性化に寄与します。

■問い合わせ先：事務局長 人見 邦良（ひとみ くによし）

TEL：047-422-0596

E-mail:info@funakan.com

三番瀬食文化出前講座

【支援金確定額：150,000円 支援率：42.5%】

記入日：平成26年3月28日

■どのような活動をしている団体ですか？

私たちはできるだけ多くの市民、企業、大学、行政などに参加を呼びかけ、東京湾に僅かに残された三番瀬の豊かな自然環境を保全するため、ラムサール条約に登録することを目的として活動しています。

具体的にはラムサール条約登録実現に向けて、年間行動計画をもとに勉強会、観察会（ふなばし三番瀬海浜公園）、シンポジウム、写真展、三番瀬食文化出前講座等を開催しています。また皆様の声を署名用紙に託して署名活動（千葉県に14万筆提出済）もしています。



魚のさばき方をプロの料理人より指導！

■事業提案型支援金をどのように活用されましたか？

「三番瀬食文化出前講座」を5回開催しました。プロの料理人が魚の鱗とりから始まり、3枚に下ろし、皮を剥ぐところまで丁寧に何度も教えていただきました。

今回はホンビノス貝、アサリ、ボラ、スズキ、青アジ、カマス、セイゴや西船橋産の小松菜、ルッコラ、蕪や船橋産の人参などの地元産の食材を使用しました。

今回はただ料理するのではなく、「魚のさばき方」、「男の料理」、「料亭での修行時代の料理」などのテーマを決めて開催しました。



念願の三番瀬弁当を作りました！

■3年目となる事業提案型支援金を活用して事業を実施することで、どのような成果がありましたか？

この事業を実施し、参加者の大部分がお魚を下ろす事が出来るようになりました。

市民が五感で自然豊かな海・三番瀬の重要性と、三番瀬は都市漁業が今でも営まれる宝の海であることを理解していただき、団体の目標の実現に向けての地道な活動であることを実感しました。

■今後の活動の抱負について

念願の三番瀬弁当を多くの市民に機会があったら食していただきたいと思いました。（三番瀬を五感で感じ、味わうことの出来るお弁当が出来上がりました）

■問い合わせ先：事務局 渡辺 優子（わたなべ ゆうこ）

TEL：047-422-0772

E-mail:yuko-lapislazzuli25@nifty.com

「食と健康」に関するシンポジウムの開催

【支援金確定額：90,005円 支援率：42.58%】

記入日：平成26年3月18日

■どのような活動をしている団体ですか？

船橋地域における福祉・介護・医療サービスの充実のためには、現在のシステムでは不十分であり、新たな構築が必要です。そのためには、医師・看護師等の専門職の枠組みを超え、サービスを受ける側の意思が反映されるよう、地域住民をも含めた新たな連携関係が重要です。専門職がそれぞれの仕事を通じて得た知識と経験を有効に活用し、新しいサービスシステムを創出し、一般に普及することを目的としています。

平成25年3月現在で、会員数は約60人です。本機構の理念を実現するため、講演会・シンポジウムの開催、そして、連携を行うためのシステム作りを継続的に行っています。



会場風景－1

■事業提案型支援金をどのように活用されましたか？

今年度は「食と健康」に関する公開シンポジウムを2回にわたって開催しました。生活習慣病防止を目的としたシンポジウムであり、1回目は「低塩分食」（平成25年9月29日）というテーマで、2回目は「低カロリー食」（平成25年10月27日）というテーマで行いました。今回は市内のレストランと提携し、実際に参加者に食事をしてもらいました。これら2回のシンポジウム開催のための費用の一部として支援金を活用しました。



会場風景－2

■3年目となる事業提案型支援金を活用して事業を実施することで、どのような成果がありましたか。

過去4年間に渡り「食」をテーマの中心に据えてシンポジウムを開催してきました。1年目は事業立上型として「介護における食」というタイトルでシンポジウムを行い好評でした。2年目以降、3年間は事業提案型として支援を受けました。提案型1年目は「アンチエイジングにおける食の役割」と、乳幼児の家族向けの「食物アレルギーの現状とその解消への提案」について、2年目は「認知症と食について」、「認知症と成年後見制度」を主題としてシンポジウムを開催しました。それぞれのテーマに関し、現状と問題点を抽出し、それぞれの日常生活の「食」の在り方等の改善方法の指導・助言を行いました。

3年目である今年度は「食と健康に関するシンポジウム」を主題に掲げ、従来の講演・討論スタイルから一歩進めて、参加者に実際に体験してもらう形式で開催しました。シンポジウム1回目は「低塩分食」、2回目は「低カロリー食」のレシピを市内のレストランと共同で開発し、参加者全員に食べてもらい、家庭における健康な食生活の実践について指導・助言を行いました。参加者は実際に味わってみることで、家庭でもヘルシー食を美味しく作れることがわかり、有意義だったとのことでした。

■今後の活動の抱負について

平成26年度は従来の「食」から主眼を広げ、船橋市市民公益活動公募型支援事業の平成26年度実施事業として採択された「船橋地域福祉相談会」を複数回開催します。その他、独自の事業として「在宅における看取りのシンポジウム（仮称）」（公益財団法人勇美記念財団の助成による）、歯科医療公開講座、「正しいくすりの飲み方について（仮題）」の公開講座、第3回パーキンソン病公開講座、第3回ふなばし福祉まつり in イオンモール船橋等を行う予定です。また、シンポジウムや公開講座を通じて会員数をふやし、地域住民を巻き込んだ福祉・介護・医療システムの構築を継続していきます。

■問い合わせ先：理事 鶴澤 龍一（うざわ りゅういち）

TEL：047-495-9559

E-mail: funabasi.fukusi.kikou@gmail.com

お問い合わせ：船橋市 市民生活部 市民協働課  
〒273-8501 船橋市湊町2-10-25  
TEL：047-436-3201  
E-mail：shiminkyodo@city.funabashi.lg.jp